「地域ＩＣＴ研究成果報告会」を開催

総務省北陸総合通信局（局長　吉武（よしたけ）　洋一郎（よういちろう））は、平成２２年度情報通信月間（５月１５日から6月１５日）行事の一環として、「地域ＩＣＴ研究成果報告会」を各代表研究機関等との共催により開催しました。

本報告会は、平成２０年度及び平成２１年度北陸地域で採択された、情報通信技術分野の競争的資金制度である「戦略的情報通信研究開発推進制度（ＳＣＯＰＥ）[注1]」プログラムの「地域ＩＣＴ型研究開発[注2]」に係る４つの課題について、研究成果・研究経過報告がそれぞれの研究機関において下記のとおり開催されました。

注１　戦略的情報通信研究開発推進制度は、情報通信技術（ICT）分野における競争的研究資金制度として平成１４年度からスタートし、総務省が定めた戦略的な重点研究開発領域における目標を実現するために、国際競争力の強化、国民の安心・安全の確保、個の活力の増進、地域の活性化などに貢献して豊かなユビキタスネット社会を築く研究開発を支援し、我が国の ICT 分野の研究開発力を一層向上させることを目的としています。
「Strategic Information and Communications R&D Promotion Programme」

注2　ICTの利活用により、地域固有の社会的・経済的課題を解決し、地場産業の振興や創出、地域住民の生活向上など地域社会・経済活動を活性化するために、地域の大学や中小・中堅企業、地方自治体の研究機関等に所属する研究者が取り組む研究開発課題。

行事実施詳細

１　ＩＣＴによる歴史資料の情報資源化を目指して

⑴ 日時：平成２２年5月２７日（木）　１３：３０～１６：００

⑵ 場所：北陸先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究調査センター３Ｆ　中会議室

⑶ 参加者：２５名

⑷ プログラム

① 主催者挨拶
北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課 下島由浩情報通信連携推進官

② 本 SCOPE プロジェクトの全体紹介と成果報告
研究代表者：北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 堀井洋助教

③ 歴史資料活用支援システム KuKuRI による地域観光振興
研究分担者：北陸先端科学技術大学院大学 沢田史子研究員

④ 歴史資料活用展示システム KuKuRI
研究分担者：株式会社 COM-ONE 米田稔 代表取締役

⑤ 歴史資料のデータベース化について
研究分担者：一橋大学情報基盤センター 林正治助教

⑥ 全体討論
司会進行：北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 堀井洋助教

⑸ 開催概要

それぞれ研究に関する報告がおこなわれ、最後に本報告会に参加された方々を交え、全体討論が行われました。参加者から積極的な質問が出され、今後の研究成果の展開方策に関する意見交換が行われました。

また、会場に休憩時間等を利用しての歴史資料活用展示システムKuKuRIの展示・実演説明が行われました。

２　落雷ハザードマップ及び雪ハザードマップの生成と情報発信

⑴ 日時：平成２２年５月２８日（金）　１３：００～１７：００

⑵ 場所：富山大学　工学部　大会議室

⑶ 参加者：５８名

⑷ プログラム

① 研究報告：平成１９年度採択課題

地上解像度にスケーラブルな雪ハザードマップ生成とその情報発信

研究代表者：富山大学工学部知能情報工学科 堀田裕弘教授

② 研究経過報告：平成２１年度採択課題

落雷ハザードマップの情報配信・提示システムとそのフレームワークの研究

研究分担者：富山大学工学部知能情報工学科 柴田啓司助手

③ 研究デモ展示

２課題で試作された機器等　富山大学学生からの説明

④ 基調講演

大地の電磁物性から探る落雷現象

富山大学理学部地球科学科 酒井英男教授

⑸ 開催概要

研究デモ展示では、研究分担機関の立山化学工業株式会社が開発した全方位レンズと偏光ユニット、セト電子工業株式会社が開発した可視光通信による情報配信の基礎検討を行うための LED アレイ、Web ブラウザを用いたハザードマップの配信を再現するため、タッチパネルを用いたプラズマディスプレイによる実演、Mobile 端末を用いた落雷ハザードマップの試作デモ展示が行われ、

富山大学工学部学生により、個々に実演・説明が行われ参加者から積極的な質問が行われました。

３　体導音センサの研究開発

⑴ 日時：平成２２年６月４日（金）　１５：３０～１６：３０

⑵ 場所：富山県立大学　Ｌ２０５会議室

⑶ 参加者：２０名

⑷ プログラム（富山県立大学 平成 22 年度 第２回地域連携公開セミナー）

① 研究報告

体導音を検出する高感度センサの研究開

研究代表者：富山県立大学工学部知能デザイン工学科 平原達也教授

② 研究報告（21 年度独立行政法人科学技術振興機構(シーズ発掘試験研究)）

視覚障害者のための移動支援技術

研究代表者：富山県立大学工学部情報システム工学科 松本三千人教授

⑸ 開催概要

試作実験に使用した各種センサをはじめ、研究分担機関の日本エレクトロニクスサービス株式会社が開発した体導音センサのワイヤレス伝送装置の会場内での回覧が行われ、質疑では参加者から研究成果に対して企業等からの研究に対する引き合いが有るのか質問が出される等、今後の研究成果の展開、さらに研究活動の継続に向けての取組の重要性が報告されました。

４　非常時の自助共助に資する情報通信環境の提供

⑴ 日時：平成２２年6月8日（火）　１３：３０～１５：３０

⑵ 場所：ＩＴビジネスプラザ武蔵　５階　研修室３

⑶ 参加者：２８名

⑷ プログラム

① 主催者挨拶

北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課 下島由浩情報通信連携推進官

② プロジェクトの概要と成果報告

研究代表者：金沢大学総合メディア基盤センター 大野浩之教授

③ 普及啓発活動と実証実験について

研究分担者：北陸通信ネットワーク株式会社 西麻里

④ 新たな情報提供環境について

研究分担者：株式会社ＣＯＭ－ＯＮＥ 米田稔代表取締役

⑤ 質疑応答

司会進行：金沢大学総合メディア基盤センター 大野浩之教授

⑸ 開催概要

今回の成果報告会では、実証試験等に使用している各種機器の紹介、今年度研究開発を進める事項についての説明がありました。

参加者からこの研究開発を進める上で、εーＡＲＫデバイスの普及啓発活動をどのように考えているのか等活発な質疑も行われました。